

ペテルブルグ美術館

所 有 者 丸井ディオス株式会社
改修設計者 大成建設株式会社一級建築士事務所
改修施工者 大成建設株式会社
所 在 地 小樽市色内1丁目130-1



小樽は北方交易の拠点として発展し、港は運河と石造倉庫などロシア文化の影響を色濃く残し、中心街は日銀支店などの銀行、公共建築など北のウォール街といわれる独特の気分を持つ町である。

原建築は矢橋健吉設計による銀行建築で、大正12年着工され現在、小樽市歴史的建築物に指定されている。

平成元年、銀行からホテルへ改修される際、設備は更新され、大正の銀行建築固有の意匠は修復保全されたが、ナイジェル・コーツの設計によって、外観に船のエピソードが加えられ、また世界の港町をテーマとするインテリアが施された。

平成7年、ホテルから美術館へ二度目の改修が行われ、これが今回の受賞の対象になっている。美術館への改修にあたって、エスカレーター新設などバリアフリー対策、防災設備を始めとする現行法令準拠、外壁維持保全計画など周到な対策がなされている。

美術館は国立ロシア美術館と提携し、帝政ロシア期以前の美術展示を目的とし、友好都市小樽市の歴史補完の観点からペテルブルグ市の歴史、文化を展示している。

都市は地理、経済、生活、建築、それらが織りなす文化である。この建築の二度にわたる改修には都市の生成を彷彿させる印象がある。

今回、美術館への改修にあたっては、ホテル時代の内部建築は展示空間としてほぼ全面的に保全、活用されている。

吹き抜けのバンキングエリアは、ホテル時代の食堂を経て企画展示室に改修され、大正建築の意匠とナイジェル・コーツ独特の意匠は今回、周到な意匠の補完によって建築文化の継承を実現し、建築の維持、保全、活用の典型的な好例になっている。

同様の効果は玄関とホールにも顕著で、歴史を経た建築が個性的な街と強い連携をつくりだしている。

客室スケールの展示室、広めの廊下は休息のラウンジとして、ホテルから引継いだ親近感のある観賞空間になっている。

日本の都市の均質化がいわれる今、歴史を刻む建築、その集積と変性、結果としてもたらされる町の個性は、人々の原風景となって、次の時代の建築に都市文化の連続性、サステナビリティを求める力になるという貴重な例である。